

1 経緯

桜田門外の変に関わった有村次左衛門^{じざえもん}の兄弟の末裔である有村滋賀県議会議長から、薩摩藩と彦根藩の流れをくむ鹿児島市と彦根市の交流について、両市長に提案があり、両市で協議を進め、関ヶ原の合戦後の井伊直政の尽力により未来志向で対立を乗り越えてきた歴史的経緯（2参照）などに基づき、薩摩藩と彦根藩のそれぞれの藩主であった島津家と井伊家の立ち合いのもと、協定を締結することとなりました。

2 島津家と井伊家の関係

島津家と井伊家は、関ヶ原の合戦では、西軍と東軍に分かれ、戦場では直接交戦したものの、合戦後には、井伊直政が徳川家と島津家の和平の仲立ちをしたと言われています。また、幕末の動乱期においては、異なる立場にあったものの、それぞれが日本の未来のために全身全霊を傾けました。このように、島津家と井伊家は、日本の歴史の大きな転換期において深い関わり合いを持ち、今の日本に多大な影響を与えました。

3 有村滋賀県議会議長と両市の関係

桜田門外の変は、水戸藩と薩摩藩を脱藩して活動した武士によって井伊直弼が襲撃された事件ですが、この薩摩藩を脱藩して活動した武士が有村次左衛門^{じざえもん}であり、有村滋賀県議会議長は、その兄弟の末裔に当たられます。